多彩な新商材提案

エコール流通グループ

書く（描く）ことの大切さアピール

エコール流通グループ株式会社（一ノ瀬巌社長、東京都）は、9月20、21日に、東京・平和島の東京流通センター第1、第2展示場で、「第119回エコール秋の大見本市」を開催、2日間にわたって活発な商懇談を展開した。

開会式で挨拶する一ノ瀬社長

来場店数は1404店（昨年比103・2%、計画比101・0%）で、随行者も含めた総来場者数は2283人（昨年比105・1%、計画比101・0%）と計画を上回り、売上高も50億1千万円（昨年比96%、目標比100・2%）と目標を達成した。今回もリアル会場に加えて、9月2日から21日までWeb開催した。

開会式で一ノ瀬社長は、出展社の協力に謝意を述べたあと、多発する災害への対応として「弊社もBCPの観点から自分たちの周りを再点検して物流に関しても新たな基準を設けようと10月から議論を始めている」とし、加えて「前回の大見本市では『書くこと描くことの大切さ』をエンドユーザーに認知してもらう販促を提唱したところ、メーカーの賛同を得るとともに、多くの販売店から共感を得ることができた。この活動を一過性のものとせず、今後も継続していくことが重要。この夏、日本理化学工業の大山社長から『絵画展で飾る絵を描いてください』と、布張りカンバスと画材をいただき、富士山の絵を描いた。エンドユーザーの購買意欲を高めるためには販売する描画材と共に、その描画材を使って描いた絵を飾ることがフックになる。各メーカーの描画材を使って8月後半から1カ月をかけて描いた8枚の絵を、8社のメーカーブースに、『画材＋作品＝購買アップ』のPOPと共に展示し、購買につなげる提案を行っている。来年1月の春の大見本市は記念すべき第120回目を迎える。画材を扱うメーカー社長にもご協力願って、盛り上げていきたい。この2日間、来場者に満足いただける、充実した見本市としたい」と挨拶。

「書くこと描くことの大切さ」を実践して、一ノ瀬社長が描いた作品の一枚

出展社を代表し、エコール流通グループ賛助会副幹事長のキングジム・宮本彰会長が「海外出張の石川幹事長の代理として開会式挨拶の栄誉を受けた。文具・紙製品・事務機器の有力メーカーが集結、全国から有力販売店が集まるエコール大見本市は、商品PR、受注商談の場でもあるが、弊社では新製品発表の場として活用させていただいており、販売店の反響を分析して、生産調整をかけている」と、新製品発表の場として盛り上げる提案を交えた挨拶を行った。

このあと、杉山一徳見本市実行委員長（東京エコール社長）の開会宣言、テープカットで開場した。

会場では、「次世代へつなぐ ウェルネスライフ&ワークに彩を！」をメインテーマに、有力メーカー117社（新規1社）、イベント館には23社（新規4社）が出展、年末～春商戦に向けて、一押しの新製品や売れ筋商品を紹介。前回に引き続き、共同プロモーションとして、「脳への効用」の面から「書くこと描くことの大切さ」を効果的にアピールする提案を行った。加えて8社の画材メーカーブースには同社で用意した直筆画と統一POPを設置し「画材＋作品＝購買アップ」と売り方提案を行い、販売店から好評を得た。

イベント館では①ウェルネスライフ&ワーク②店舗・店頭活性化③案件創出のお手伝い④災害対策・BCPの4つのゾーンに分けて提案。人気のショートセミナーは2日間で合計6つのセミナーを開催、いずれも満席の盛況となった。

イベント館で災害対策・BCP商品を提案

フォーデック

ユーザーも多数来場

健康経営、防災用品アピール

【ビューロウ発】株式会社フォーデック（山尾剛志社長、広島市）は、9月12、13日に広島市西区商工センターの広島サンプラザで、「グランドフェア・オータム2024」を開催、販売店218店385人、ユーザー133社249人が来場、課題解決に役立つ商材やサービスの提案を行い、6億7562万円を売上げた。

開会式で挨拶する山尾社長

初日の午前8時50分から開会式を行い、はじめに山尾社長が「中小企業は業績に見合わない賃上げ、システムのリニューアルなど、厳しい環境にあるが、当社は基幹システムを更新し、物流システムを構築してデータを活用した経営、営業を進めている。また、人材確保にも力を入れ、『社員が主役』の人を中心とした経営を目指し、若手が活躍できる場や教育、挑戦の場を増やしていきたい。営業本部を新たに新設、大政史生を営業本部長に任命し、顧客にフォーカスし、ユーザーに寄り添った営業部隊にしていく」と、事業環境変化への取り組みについて説明。

続いて、事業の概況について「第1四半期は前年を上回ることができた。オフィスソリューション事業部は、オフィスのペーパーレス化に伴い、中小ユーザーを中心にICT商材を提案している。ビジネスパートナー事業部は、販売店とユーザーを訪問し、文具以外の商材提案を行い、新規チャネル開拓や量の拡大にチャレンジしている。オフィス環境事業部は、若手社員を中心としたICT・DX推進室を開設、家具だけでなくICTを含めたトータル提案を行っている。それにより新築、リニューアル需要を獲得している」と説明し、「今回のグランドフェアは『With～ともに見つけよう新たなおどろき』をテーマに、店売りのヒントになる新製品、ハイブリッドな働き方にマッチした家具やICT商材など、商材の幅を広げて展示している。販売店経由でユーザーも招いており、新製品に加えて既存商品も説明して欲しい。メーカー、販売店、ユーザーの3者をつなぐのがフォーデック。出品してよかった、来てよかったといわれるフェアにしていきたい」と、意気込みを述べた。

販売店に交じって多数のユーザーで賑わう会場

出品メーカーを代表して、コクヨマーケティング・石井社長の祝辞、松原グランドフェア実行委員長の概要説明の後、寺西化学工業・中林社長の音頭で一本〆を行い、開場した。

会場入り口の52社のイチ推し商品を集めた新製品コーナー、①健康経営・福利厚生（健康経営推進をサポートするアイテムの紹介）②オフィス家具×ICT（多彩なコミュニケーションに合わせた什器やツールを紹介）③ICT・DX（すぐに実践できるICTソリューションを厳選）④防災・人材育成の4つの提案コーナー、フェア限定企画の買い回りスタンプラリーなどの企画が好評を博した。

記者会見で山尾社長は「来年に新物流システムの稼働を予定している」と語った。

新製品コンテストの1位～5位は①キングミニシリーズ（キングジム）②なつかしの黒板拭きシリーズ（日本理化学工業）③ピコトレ暗算ドリル（ソニック）④桜レーダー（シード）⑤プリンセス防犯ブザーパフューム（アスカ）。

なお、見本市前日の11日午後6時から、広島サンプラザホテルで、メーカー、有力販売店を招いて「フォーデックパートナー会懇親会」を開催した。

懇親会は、渡部執行役員ビジネスパートナー事業部長が進行、はじめに山尾社長が「中四国の弱みは人口減少によるマーケットの縮小と、メーカーの撤退。一方、強みは、販売店との緊密なネットワーク、多数のメーカー、販売店と取引があること。一番大切なのは人間関係であり、みなさんとコミュニケーションをしっかりとっていきたい」と挨拶。

続いて、パートナー会・道下会長の挨拶、大政取締役営業本部長の概要説明の後、パートナー会・浜田幹事の首唱で乾杯し、開宴。

宴中、昨秋のグランドフェアで好成績を収めたメーカー、販売店の表彰を行った。

メーカーサンクス賞（当日受注販売店数伸長率上位メーカー）＝金賞・カシオ計算機、銀賞・ニチバン、銅賞・サクラクレパス

アクティビティ賞（当日買上げメーカー数上位販売店）＝金賞・ヒロヨン、銀賞・桧山事務器、銅賞・森田尚文館

エクセレント賞（当日買上げ実績上位）＝金賞・小川祥雲堂、銀賞・モリイケ、銅賞・岩井事務機

この後、新拠点長と、新たに経営管理本部長に就任した新井取締役を紹介。最後に、長野常務の閉会の挨拶でお開きとなった。

新規28社など133社

日販、中三ST商談会　体験コーナーも特設

日本出版販売株式会社（奥村景二社長、東京都）と中三エス・ティ株式会社（長豊光社長、東京都）は、9月13日に東京都台東区の東京都立産業貿易センター台東館で、文具の共同商談会「Discover New Items 2024 Autumn」を開催、約450人が来場して活発な商懇談を展開した。

挨拶する中三ST・長社長

開会式で、日販文具雑貨商品本部長兼中三エス・ティの長社長が「この商談会は、お客様と商品との出会いを演出する、大変大事な場であり、多様化するニーズに対応するようにしていきたい。加えて、日販の責務として、お客様と商品が出会える売り場を維持・拡大しなければならない。商品に抜け漏れのない、きれいな売り場作りをモットーに提案し、文具・雑貨を取り扱う売り場を増やしていく。今年10月には、新たな物流センター『N－PORT新座』が稼働する。日販グループには文具・雑貨を扱う取引先が1000店舗以上あり、そのお店に商品を届けるために、持続可能な物流基盤を整えていく。今年8月の弊社取引書店店頭における文具売場の売上は18カ月連続で前年を超えた。日販は9月10日に創業75周年を迎え、同じく中三エス・ティも9月1日に60周年を迎え、奇しくも両社にとって記念すべき月となる。本日の商談会が、皆様とともに成長を続け、この先10年、20年、さらに100周年を目指していくための新たなスタートの場になるように、頑張っていきたい」と挨拶。

多数の来場者で賑わう会場

出展メーカーを代表し、クツワ・寺浦浩之社長が挨拶。

今回は初の2フロアを会場に、文具をメインとした6Fと、雑貨をメインとした7Fに新規28社を加えて133社が出展、新商品や季節商品、店頭企画コーナー向けの雑貨など幅広い商品を展示して賑わった。

ニッケン文具株式会社
本　社　〒577-0013 東大阪市長田中4丁目5番44号
TEL(06)6747-7711・FAX(06)6747-5557
代表取締役会長　德弘　滋　代表取締役社長　德弘　恭子
第一支店・第二支店・関西支店
第七支店・なみはや支店・SRD事業部
東京支店・関東支店・東支店・名古屋支店
四国支店・九州支店・札幌支店
グループ会社　株式会社 エヌケイ深井

封筒は企業の「顔」。
私たちは
企業の顔を大切にします。
富士封筒
ISO9001
ISO14001
認証取得
FUJIX フジックス株式会社
http://www.fujix-kk.com
本　社／〒577-0066 東大阪市高井田本通2-7-18 TEL.(06)6784-3900㈹ FAX.(06)6784-4100
東京営業所／〒140-0002 東京都品川区東品川1-25-3 TEL.(03)5495-7521㈹ FAX.(03)5495-0622
名古屋営業所／〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-7-6 TEL.(052)209-5580㈹ FAX.(052)204-3200